民報 おうしゅう 読者版

発　行
赤旗奥州出張所
水沢大手町三丁目 59
Tel 24−2021
Fax 24−2049

新医療センター整備の凍結問題は、「いったい病院は存続されるのか、市立医療施設に未来はあるのか」と、関係者の大きな不安に！



6月25日閉会した、令和8年奥州市議会第2回定例会において、日本共産党奥州市議団が行った一般質問について、お知らせします。今回は、千田美津子議員の質問を紹介します。

新医療センター整備について、一旦中断する・凍結する等、ゼロベースからの検討などあり得ない…

千田美津子議員は、新医療センター整備について次のように質問。「市長は、新医療センター整備について、事業推進を一旦中断する、実質的に凍結することを表明したが、この問題はこの間多くの市民を巻き込みながら奥州市の地域医療の進むべき方向性を決定してきたものであり、ゼロベースからの検討などあり得ない」と指摘し、「行政の継続性と言う観点からも大きな責任があるが、これまでの議論の到達点をどう評価し、何を変えようと言うのか」と質問しました。

新医療センター現計画の見直しと地域医療の再設計が公約だった…市長

これに対し、郷右近市長は、「先の選挙において、『新医療センター現計画の見直しと地域医療の再設計』を公約の一つに掲げ当選した。この市民の負託に応えることも責務だ」「これまでに積み上げてきた議論を充分に踏まえつつ、医療関係者や市民とのさらなる対話を通じ、現実的で持続可能な地域医療体制の実現に尽力したい」等と述べました。

2年間の凍結問題は、「いったい病院は存続されるのか、市立医療施設に未来はあるのか」等、大きな不安になっている…

千田議員は、2年間の凍結による市民や患者、医師など医療従事者等への影響について質問。

郷右近市長は、「老朽化が進む総合水沢病院の患者や医療従事者の安全を危惧する声があることは承知しているが、安全対策は、建て替えなど待たずに早急に講じるべきものだった」等と述べました。

千田議員は、「新医療センター整備の凍結問題は、単なる施設の危険性などではなく、『いったい病院は存続されるのか、現在働いている病院そのものに未来はあるのか』と言った患者や医療関係者にとっても大変重大な問題だという点を、市長は充分に認識すべきだ」と指摘しました。

施設の老朽化により、耐震補強については、撤回すべき…

さらに千田議員は、「市長は、水沢病院の耐震補強の可能性調査をやると言うが、これから新たに耐震診断を行うなどと言うのは愚策でしかない。なぜなら、建物が既に耐用年数の39年を優に超えて43年、或いは58年経過しており、耐震補強で済む問題ではない。耐震補強をしても、すぐに改修が必要となるため、耐震費用と改修の費用の二重の市税の投入が必要となるため、耐震改修については撤回すべきだ」と迫りました。

修繕できるか、もう一度しっかり把握したい…市長

これに対して、市長は、「先般、市立医療施設の院長等と様々な話をしたが、抱えている不安等についてもこれから一緒に考え、対応していきたい。耐震改修については、修繕できるのかどうかという可能性論を考えた中で、もう一度しっかりとした形の現在の数値というものを把握しなければならないという思いがある」と述べるにとどまりました。

農民組合が軽トラ・デモ実施！





奥州市内の5つの農民組合（胆沢・江刺・衣川・前沢・水沢）は、7月9日軽トラ・デモを行いました。出発に先立ち、胆沢農民組合の黒沢敏明組合長は、「米価が心配されているときに、世論に背を向けて食糧法改悪を進めるのは許せない」とあいさつ。行動には軽トラ13台と宣伝カーが参加し、奥州市内を一巡しました。「備蓄米の買戻しを早急に！」「政府は米の需給に責任を持ち所得補償を！」と訴えて走りました。また、参院農林水産委員会で食糧法改悪が可決されたことについても抗議の声を上げました。草刈りの時期とあって、多くの農家が作業の手を止めて注目。手を振ってくれる方もあり、反応は上々でした。

5農民組合では8月にかけて、奥州市長に対して、自治体独自の農業政策を求める要請も予定しています。